

東証1部（証券コード：8864）

<https://www.afc.jp/>

AFCグループはおかげさまで
創立50周年を迎えました



決算説明資料

- 2021年3月期 -

2021年5月28日

 AFCグループ
空港施設株式会社
AIRPORT FACILITIES CO., LTD.

目 次

I.	2020年度 連結決算概要	・・・	2P
II.	2021年度 連結業績予想	・・・	12P
III	配当について	・・・	16P
IV.	最近の取り組み		
	①環境事業への取り組み	・・・	18P
	②その他の取り組み	・・・	21P



I. 2020年度 連結決算概要

II 2021年度 連結業績予想

III. 配当について

IV. ①環境事業への取り組み

②その他の取り組み

I . 2020年度 連結決算概要

2020年度連結PL

- ◇ コロナの影響を受け、特別損失を計上
- ◇ 経常利益は対予想比において増加

単位：百万円

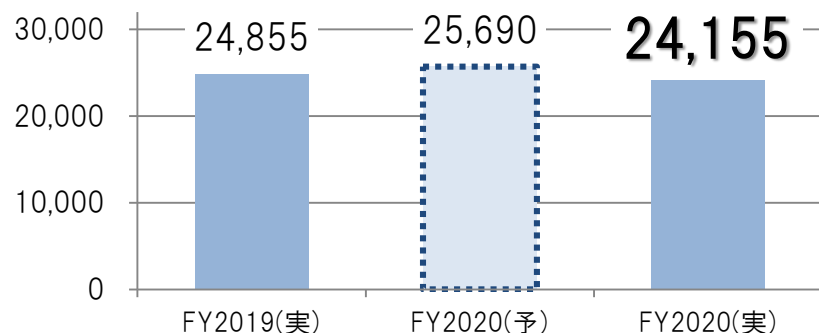
売上高

【対前年同期比】

△700百万円 (△2.8%)

【対予想比】

△1,535百万円 (△5.9%)



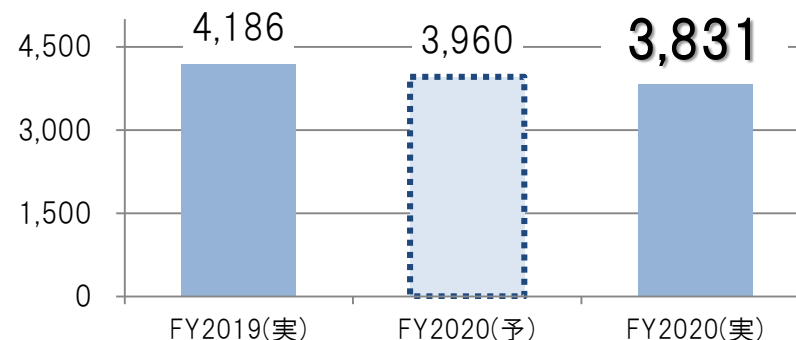
営業利益

【対前年同期比】

△354百万円 (△8.4%)

【対予想比】

△129百万円 (△3.2%)



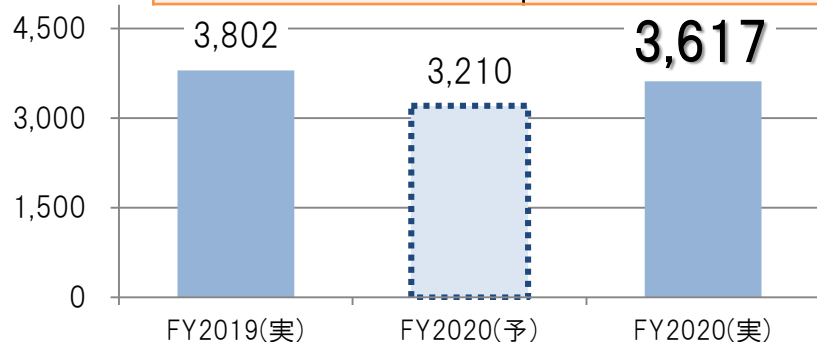
経常利益

【対前年同期比】

△184百万円 (△4.8%)

【対予想比】

+407百万円 (+12.6%)



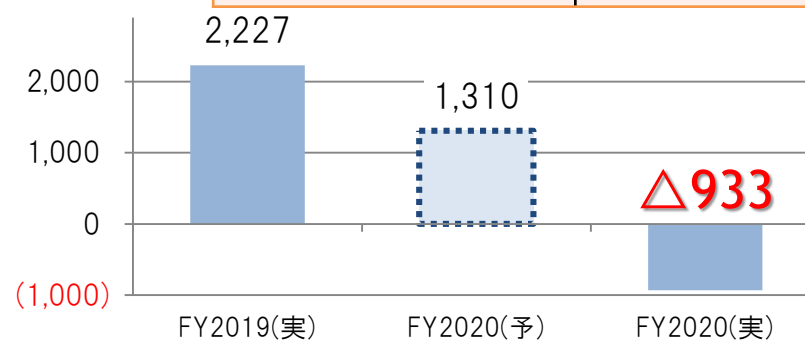
当期純損益

【対前年同期比】

△3,161百万円 (－%)

【対予想比】

△2,243百万円 (－%)



※親会社株主に帰属する当期純利益

I . 2020年度 連結決算概要

2020年度コロナの影響について

<概要>

- 空港利用者の減少により、水使用量が大幅に減少したことにより売上が減少
- コロナの影響を受けた顧客を対象に賃料・熱料金債権の一部免除を実施し特別損失に計上
- 京都のホテル用賃貸物件について、減損損失約 31億円を特別損失に計上

給排水使用量の減少	債権免除額	ホテルの減損処理
約10億円 (売上減)	総額約14億円 (特別損失)	約31億円 (特別損失)

<業績への影響>

- 上記の件は、コロナの影響による一時的な損失であり、当社の事業収益性や財務状況に大きな影響を与えておりません

I . 2020年度 連結決算概要

2020年度 業績推移

2020年度 四半期毎売上高・営業利益

単位：百万円

	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	5,932	6,249	5,954	6,019
営業利益	1,185	1,064	1,118	462
経常利益	1,182	971	1,079	384
純利益	707	265	621	△2,527

債権免除による
特別損失を計上

債権免除及び京都のホテル減損による
特別損失を計上

国際学生寮取得
に伴う費用を計上

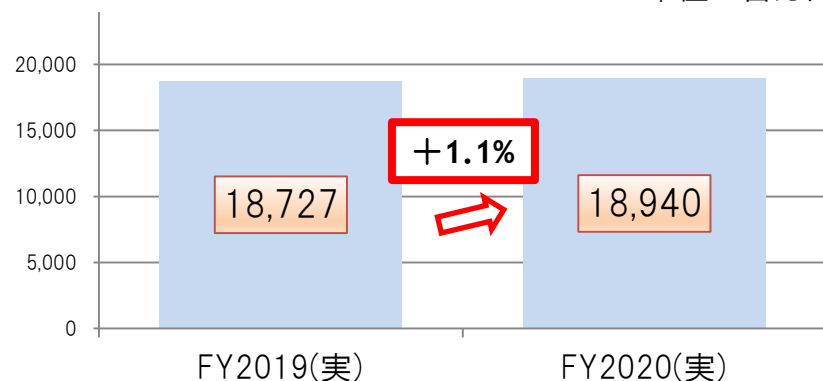
- ◇ 安定的な固定収入を背景に売上高を確保
- ◇ 国際学生寮の取得に伴う一過性の費用を計上
- ◇ コロナの影響を受け、債権免除及び減損損失を特別損失として計上

I . 2020年度 連結決算概要

不動産賃貸事業

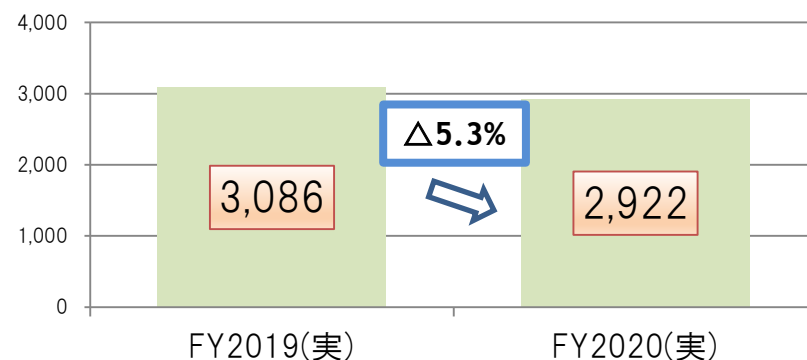
売上

単位：百万円



営業利益

単位：百万円



《売上》

- ◇ 19年度に取得した物件の通年稼働等により、前年比1.1%の売上増加

《営業利益》

- ◇ 修繕費（省エネ化推進費等）の増加、国際学生寮関連の公租公課計上等により前年比5.3%の営業利益減少

I . 2020年度 連結決算概要

不動産賃貸事業

◇ 金沢八景国際コミュニティプラザ（国際学生寮）、2021年3月に提供を開始

用 途	学生寮（3階～6階） 商業テナントスペース（1階～2階） ※ドラッグストアやクリニック等が入居
竣工日	2021年3月1日
面 積	延床面積）9,582㎡
提供先	学校法人 関東学院、各商業テナント

- ・ 当社初となる学生寮の提供
- ・ 関東学院が保有する遊休地を賃借し、学生寮を建設。
- ・ 2021年3月より供用開始しており、主に21年度以降の業績に貢献



外観



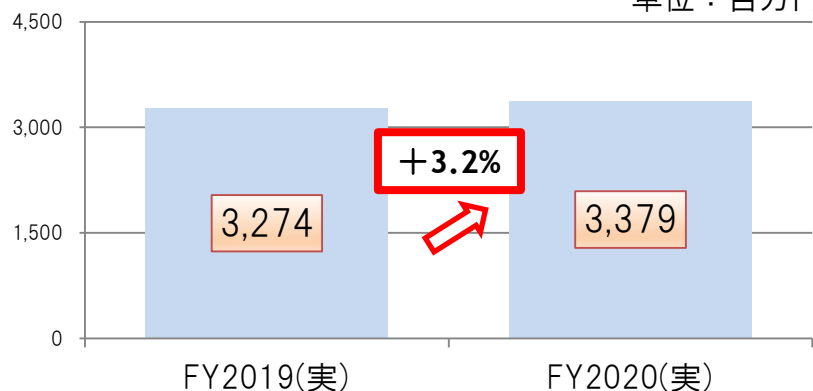
内観（ラウンジエリア）

I . 2020年度 連結決算概要

熱供給事業

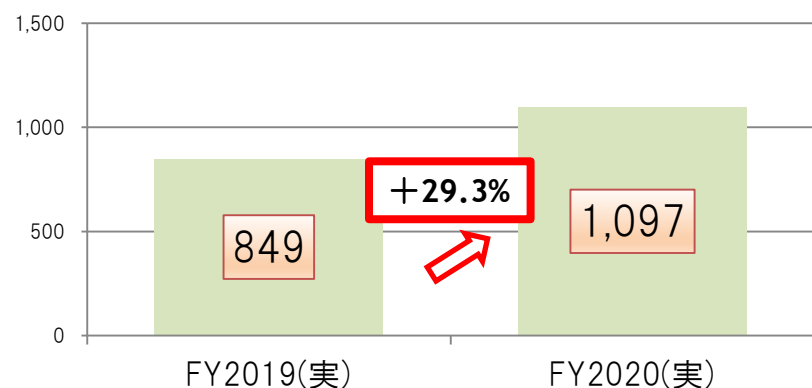
売上

単位：百万円



営業利益

単位：百万円



《売上》

- ◇ コロナ感染拡大に伴う需要減がみられたが、羽田の第2ターミナルビルの一部増築に伴う供給先の増加もあり前年比3.2%の増加

《営業利益》

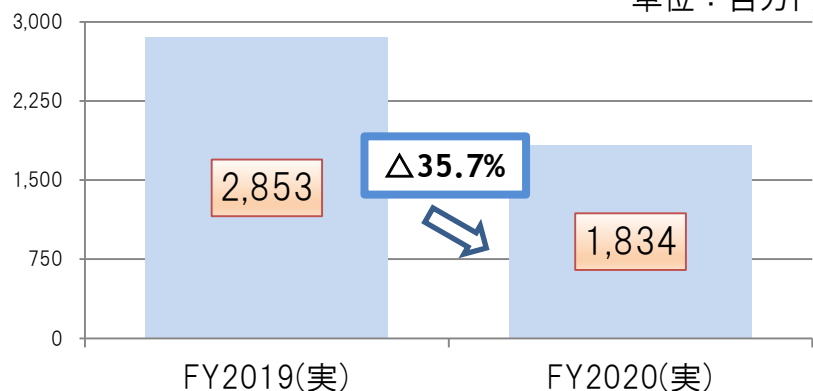
- ◇ 電気・ガスの燃料費や修繕費が低減したこと等により、費用が減少
営業利益は前年比29.3%の増加

I . 2020年度 連結決算概要

給排水運営その他事業

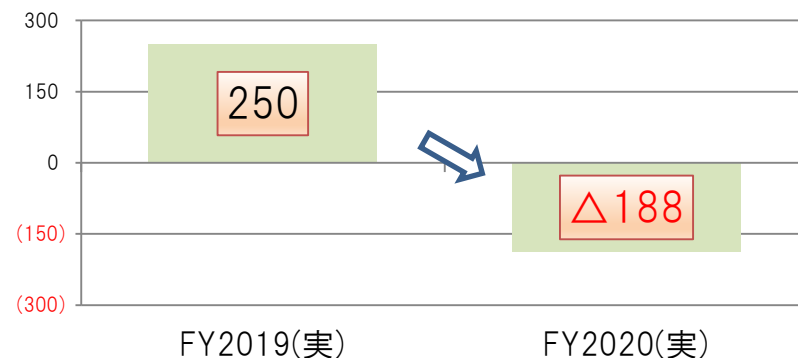
売上

単位：百万円



営業利益

単位：百万円



《売上》

- ◇ コロナ感染拡大に伴う空港利用者の激減により、給排水使用量の大幅な減少が続き、前年比35.7%の売上減少

《営業利益》

- ◇ 売上の大幅な減少により、営業利益は4.3億円の減少

※その他事業：共用通信事業・太陽光発電事業を実施

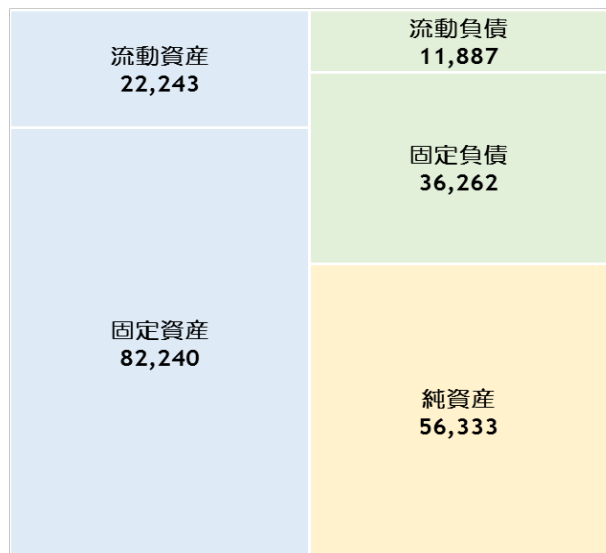
I . 2020年度 連結決算概要

財務状況

【 連結貸借対照表】

2020年3月末

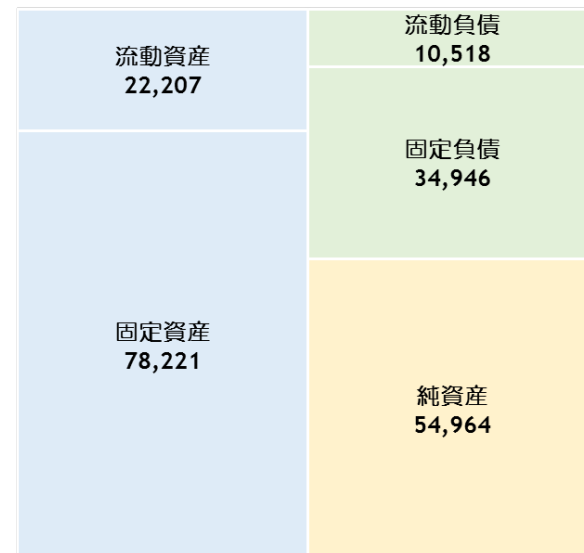
単位：百万円



資産合計
4,054百万円減

2021年3月末

単位：百万円



総資産額	1,044億円
1株当たり純資産	1,080円
自己資本比率	51.5%

総資産額	1,004億円
1株当たり純資産	1,049円
自己資本比率	52.1%

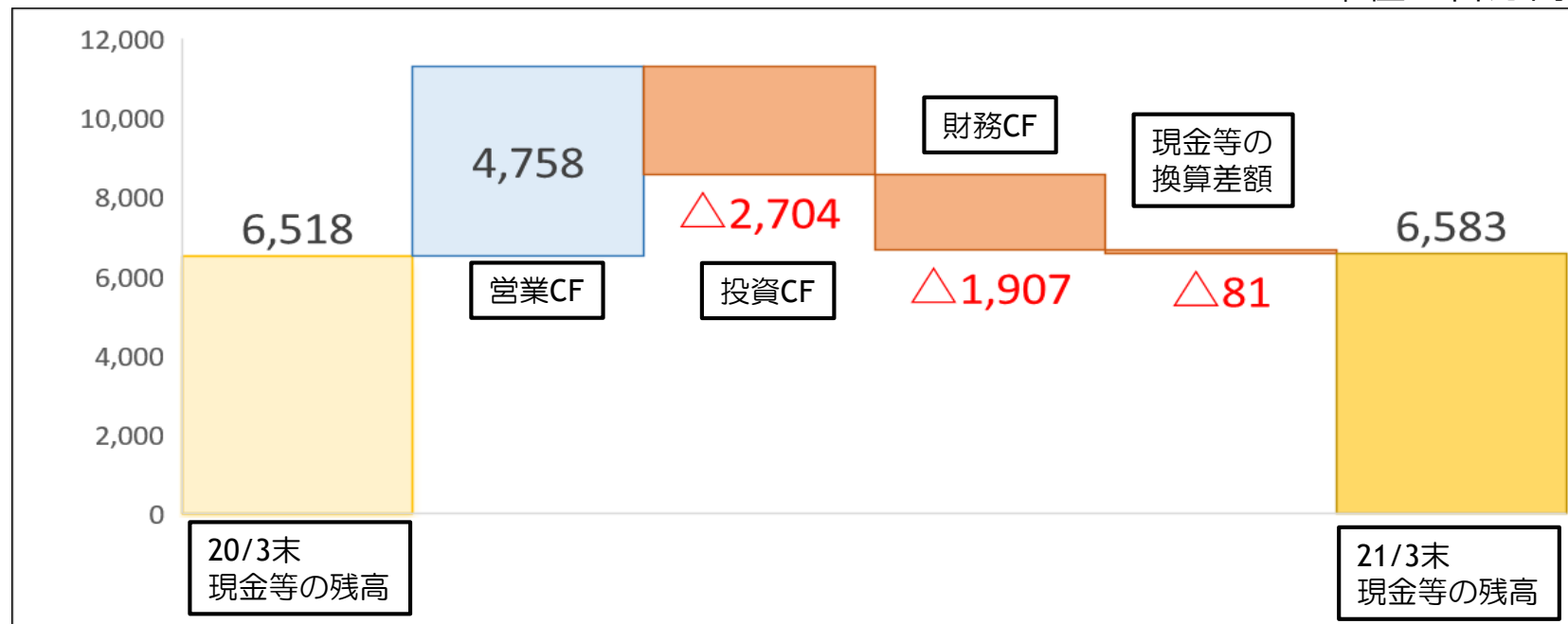
(資産) 金沢八景国際コミュニティプラザの取得による増加、京都のホテルの減損処理による減少
 (負債) 長期借入金の減少や国有財産年間使用料の支払いによる未払費用の減少等
 (純資産) 親会社株主に帰属する当期純損失等による減少

I . 2020年度 連結決算概要

財務状況

【 連結キャッシュ・フロー】

単位：百万円



営業活動によるキャッシュ・フロー	主に、営業活動による利益であり、これにリース債権の取得や法人税等の支払いを控除し、減価償却費・減損損失の戻入や、営業貸付金の回収による収入を加えている
投資活動によるキャッシュ・フロー	主に、金沢八景国際コミュニティプラザ新築工事等の固定資産の取得による支出
財務活動によるキャッシュ・フロー	主に、借入金の返済や配当金の支払いに伴う支出



I. 2020年度 連結決算概要

II 2021年度 連結業績予想

III. 配当について

IV. ①環境事業への取り組み

②その他の取り組み

Ⅱ. 2021年度連結業績予想

連結PL

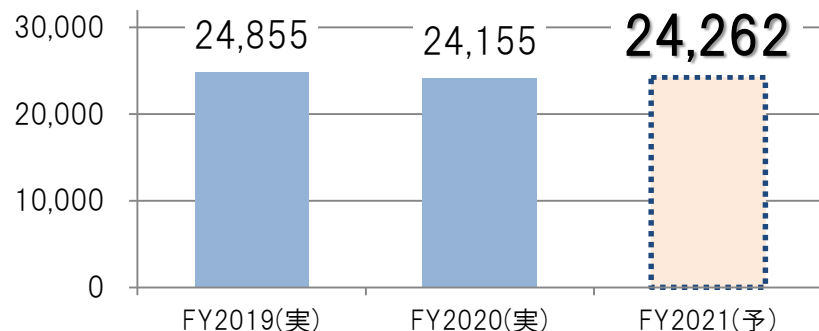
- ◇ 不動産賃貸事業と熱供給事業は通年で安定した売上を見込む
- ◇ ワクチン接種の進展に伴い徐々に航空需要が回復すると予想

単位：百万円

売上高

【対前年同期比】

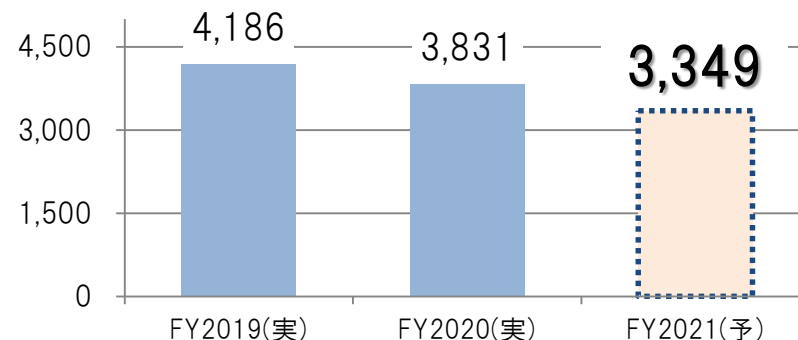
+107百万円 (+0.4%)



営業利益

【対前年同期比】

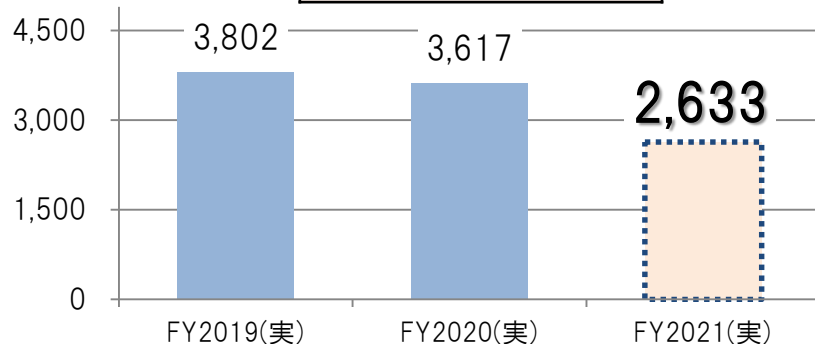
△482百万円 (△12.5%)



経常利益

【対前年同期比】

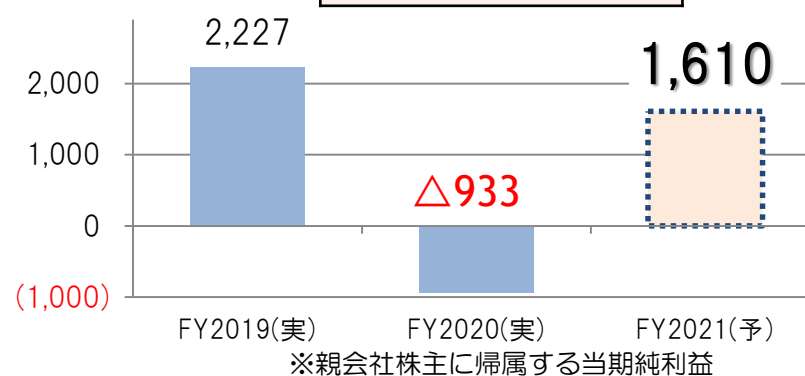
△984百万円 (△27.2%)



当期純利益

【対前年同期比】

+2,543百万円 (―%)



Ⅱ. 2021年度連結業績予想

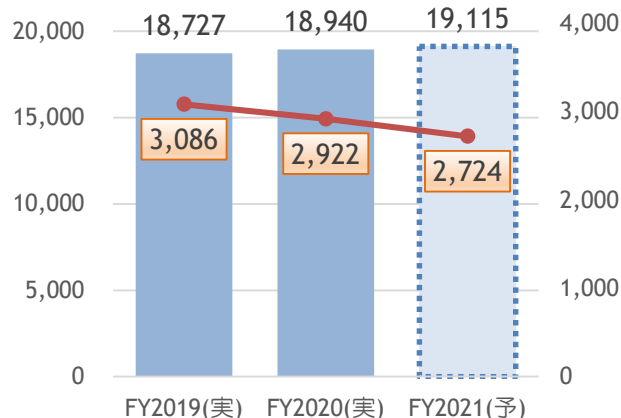
～セグメント別～

■：売上高（棒グラフ・左目盛り）
■：営業利益（折線グラフ・右目盛り）

単位：百万円

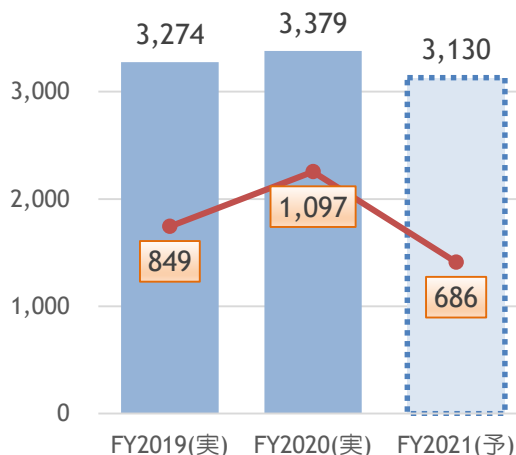
不動産賃貸事業

対前年同期比
（売上高）175百万円増（+0.9%）
（営業利益）198百万円減（△6.7%）



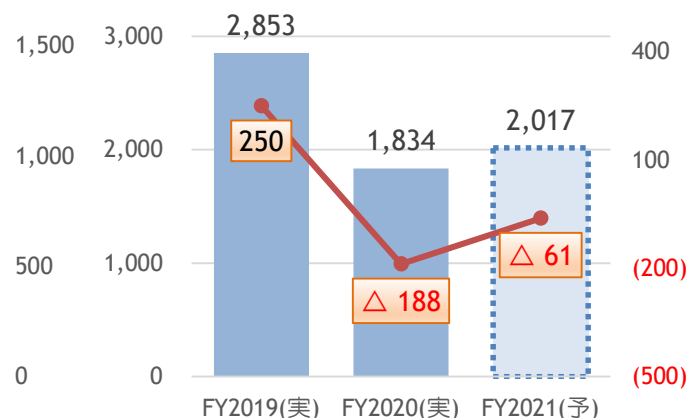
熱供給事業

対前年同期比
（売上高）249百万円減（△7.3%）
（営業利益）411百万円減（△37.4%）



給排水運営その他事業

対前年同期比
（売上高）183百万円増（+9.9%）
（営業利益）127百万円増（+1%）



＜主な増減要因＞

【売上高】

・国際学生寮の通年稼働による増収効果

【売上高】

・需要はほぼ前年並みと予想

【売上高】

・コロナの影響による水道給排水の売上減少の段階的回復を予想

【営業利益】

・販売管理費（調査費、人件費等）等の増加もあり、営業利益が減少

【営業利益】

・売上原価（原材料費・修繕費）が増加することにより営業利益が減少

【営業利益】

・売上の増加に伴う損失の減少

Ⅱ. 2021年度連結業績予想

中期経営計画及び長期ビジョンの策定

〈中期経営計画〉

- ・ 22年度から開始する中期経営計画を策定し、これから3年程度の具体的なプランをお示しいたします。

〈長期ビジョン〉

- ・ コロナ後を見据えた更なる成長を示す、長期ビジョンを策定してまいります。

中長期的なビジョンをお示しすることで、当社の持続的な成長の姿を投資家の皆様にご理解頂けるように取り組んで参ります。



I. 2020年度 連結決算概要

II 2021年度 連結業績予想

III. 配当について

IV. ①環境事業への取り組み

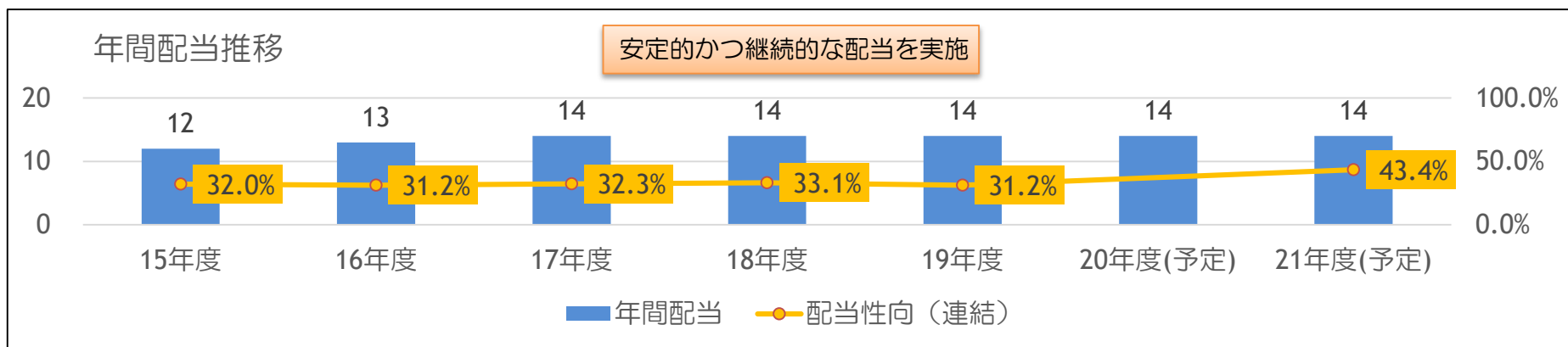
②その他の取り組み

Ⅲ. 配当について

年間配当について

2020年度
1株あたり年間配当
14円（予定）
期末配当 7円予定

2021年度
1株あたり年間配当
14円（予定）
中間配当7円 + 期末配当7円



- 株主各位への利益還元を重要と位置づけ、財政状況を総合的に勘案した上で、20・21年度ともに1株当たり年間配当14円の維持を予定しております。



I. 2020年度 連結決算概要

II 2021年度 連結業績予想

III. 配当について

IV. ①環境事業への取り組み

②その他の取り組み

IV.①環境事業への取り組み

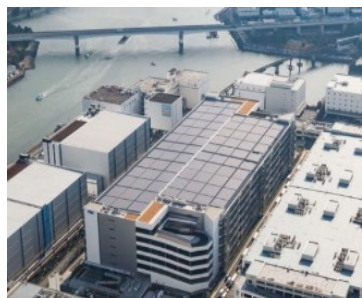
当社のCO₂排出量削減に向けた取組（太陽光発電関連事業）

【FIT制度を活用した案件】 ＊2020年度実績

竣工・稼働日	施設名称	設置場所	年間発電量
2013 10	本三里塚ソーラー発電所	千葉県成田市	約690千kwh
2014 3	鹿児島空港 第一・第二格納庫及び倉庫（屋上）	鹿児島空港	約360千kwh
2016 1	岐阜瑞浪ソーラー発電所	岐阜県瑞浪市	約1,400千kwh
2018 1	TRC物流ビルB棟屋根ソーラー発電所	大田区平和島	約2,500千kwh

【自家消費案件】 ＊通年稼働時

竣工・稼働日	施設名称	設置場所	年間発電量
2020 12	羽田空港 国内貨物ターミナル（屋上）	羽田空港	約1,200千kwh



【TRC物流ビルB棟屋根
ソーラー発電所】



【鹿児島格納庫
屋上太陽光発電所】



【岐阜瑞浪ソーラー発電所】

【最近の取組事例】
羽田空港国内貨物ターミナル



施設名称	航空貨物ターミナル施設	
	E-4棟	W-1棟
年間 発電量	872千kwh	323千kwh
設置面積	4,672㎡	1,723㎡
稼働開始	2020年12月	
資金調達	グリーンボンド（私募債） を発行し、投資額の一部に 充当	
その他	東京都から補助金の交付を 受ける	

Ⅳ.①環境事業への取り組み

環境事業推進プロジェクトチームの設置

- SDGsの取り組みに向けて、環境事業へ積極的に取り組むための社内横断的なプロジェクトチームを立ち上げました

ワーキンググループ名	目的	取り組み内容
環境イニシアティブ管理WG	CO ₂ 削減目標の設定	削減に向けた具体的な対応や削減効果等の検討を行い、削減計画（目標、スケジュール等）を設定する
環境事業（エコエアポート）推進WG	環境事業（エコエアポート）の推進	既に進めている太陽光発電と言った再生可能エネルギーを中心に、今後の取り組みを検討・推進します
バイオマス発電推進WG	バイオマス発電の推進	新たな取り組みとしてバイオマス発電を検討します
新技術WG	新技術を活用した新たな事業の検討	水素、燃料電池といった新技術を活用した取り組みを検討します

国土交通省航空局は「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現」に向け、「空港分野におけるCO₂削減に関する検討会」を立ち上げました。当社はオブザーバーとして参加しております



I. 2020年度 連結決算概要

II 2021年度業績予想

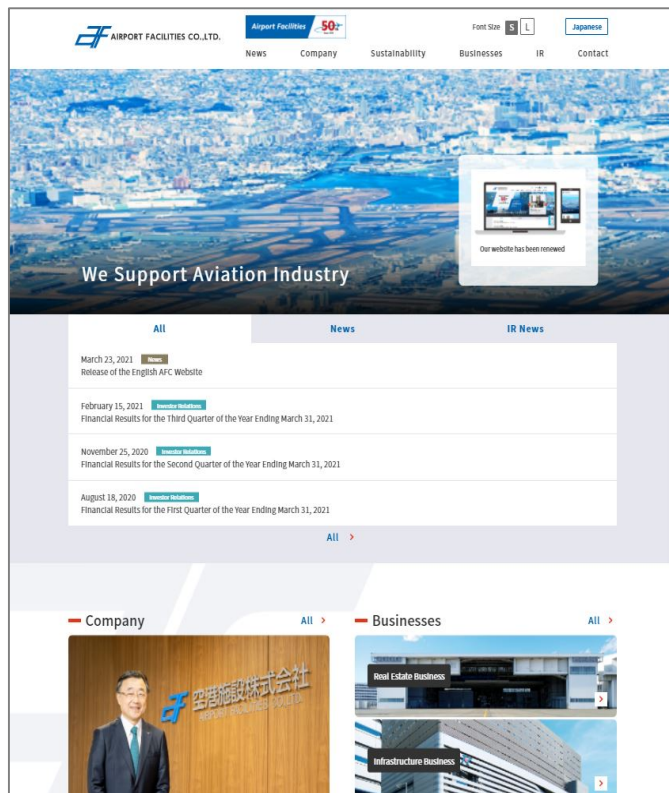
III. 配当について

IV. ①環境事業への取り組み

②その他の取り組み

IV.②その他の取り組み

英語HPのリニューアル



TOPページ

英語版ホームページの全面リニューアル

日本語サイトと変わらぬ情報量となっておりますので、英語圏の方は是非ご覧ください。

<https://www.afc.jp/english/>

英語メールの登録制配信サービスを導入

海外の投資家様にも当社を知って頂けるように、英語でのメール配信サービスを導入致しました。

英語での登録はこちら

<https://www.afc.jp/english/ir/mailmag.html>

日本語での登録はこちら

<https://www.afc.jp/ir/mailmag.html>

海外の皆様にも、当社の情報を知って頂くことで更なる企業価値の向上を目指して参ります。

免責事項

ご注意

- 本資料は、投資勧誘の目的のための資料ではありません。
- 将来に関する部分については、現時点で入手可能な情報に基づくものであり、事業環境の変化などによって異なる結果になる可能性があります。
- 投資等に関する重要な決定は、ご利用者のご判断でお願い申し上げます。

本資料は、ホームページでもご覧頂けます。

<https://www.afc.jp/>

お問い合わせ先

空港施設株式会社 IR室

TEL : 03-3747-0953

FAX : 03-3747-0258

E-MAIL : afc_ir@afc.jp